



現代日本政治論I

佐藤内閣 (II)

浅野正彦

佐藤政権の特徴

1. 自民党内部では強い政権
 - ・・・佐藤は池田より党務経験があった
2. 池田政権より佐藤政権は国民から不人気

佐藤は無口、事務的、官僚的、暗く、
秘密主義というイメージ

佐藤内閣改造(1966年8月)・・・1967年の総選挙対策

派閥内訳

佐藤派・・・5

前尾派(旧池田派)・・・3

福田派、川島派、三木派、石井派・・・各2

藤山派、森派(河野派から分岐)・・・各1

黒い霧批判・・・小さいながら世間の目を引く不祥事が続出

東京都議会選挙において贈収賄

→ 議長を含む都議が逮捕(1965年)

→ 都議会は解散

→ 自民党が大敗(定数120、69議席→38議席)

自民党代議士 田中彰治が逮捕(1966年8月)

→ 自民党を離党 → 議員辞職

決算委員長の地位を利用 → 恐喝、詐欺を行った容疑

荒船運輸大臣が地元の駅に急行を停車させた(1966年9月)

「一つくらいいいじゃないか」と発言 → 荒船大臣は更迭

ビデオ:1965 黒い霧批判

上林山防衛庁長官が選挙区入りの際、自衛隊機を使う
→ 批判を浴びた(1966年10月)

→ 佐藤内閣支持率は25%

1966年12月の総裁選挙結果

第一回投票結果

佐藤栄作	・・・289	→ 再選
藤山愛一郎	・・・ 89	
前尾繁三郎(不出馬)	・・・ 47	
灘尾弘吉	・・・ 11	
野田卯一	・・・ 9	
その他	・・・ 5	

佐藤内閣改造(1966年12月)

川島副総裁と田中自民党幹事長は黒い霧の責任を取り辞任

田中 自民党幹事長 → 福田赳夫(前蔵相)

ベテラン中心で手堅い＝新鮮さに欠ける

派閥内訳

佐藤派・・・6

三木派・・・3

福田派、前尾派(旧池田派)、石井派・・・各2

川島派、船田派、森派(河野派から分岐)・・・各1

藤山愛一郎、中曽根康弘、松村派を排除

← 総裁選で反佐藤で動いたから

佐藤内閣を「右翼片肺飛行」(中曽根康弘)と批判

1967年1月総選挙結果

自民党・・・277議席
(追加公認などを含めると285議席)

社会党・・・140議席
(　　　　　　　//　　　　　141議席)

民社党・・・30議席
公明党・・・25議席・・・衆院選初登場
共産党・・・ 5議席

ビデオ:1967 昭和元禄タレント議員

佐藤内閣独自の政策・・・沖縄返還

佐藤は1964年頃から沖縄を重視

池田三選に挑戦するため佐藤が新政策を

→ 中国と沖縄が浮上

国際関係に配慮 → 中国を後回し

→ 沖縄に精力を

「自分が総裁・首相になった場合には、アメリカに沖縄返還を要求する」と池田内閣の無為を批判(1964年5月)

佐藤栄作首相は沖縄返還希望 → ジョンソン大統領
(1965年1月の訪米時)

「沖縄返還が実現しない限り、日本の戦後は終わっていないことを、よく承知しております」

(佐藤首相 1965年8月 首相として戦後初めて沖縄を訪問)

1967年8月 沖縄問題懇談会が首相直属に改組

→ 沖縄問題等懇談会(座長: 大浜信泉 早大総長)

佐藤内閣の特色 → 学者グループを多用

1967年11月 佐藤首相が訪米 ジョンソン大統領と会談

数年以内 (within a few years) に沖縄返還について合意

小笠原の返還も合意

外務省ではなく、佐藤首相のイニシアティブ

ビデオ:1969 三島由紀夫と盾の会

ビデオ:1969 新宿西口地下広場の集会

ビデオ:1969 東大安田講堂落城

佐藤内閣改造(1967年11月)・・・訪米後の改造

川島正次郎(副総裁)

福田赳夫(自民党幹事長)・・・田中角栄が自民党三役から外れる

宮沢喜一(経済企画庁長官)→ 留任

保利茂(建設大臣)・・・福田に近い佐藤首相の腹心

中曽根康弘(運輸大臣)

・・・佐藤を批判していたが「犬の遠吠えでは仕方がない」と入閣

派閥内訳

佐藤派・・・7

三木派・・・3

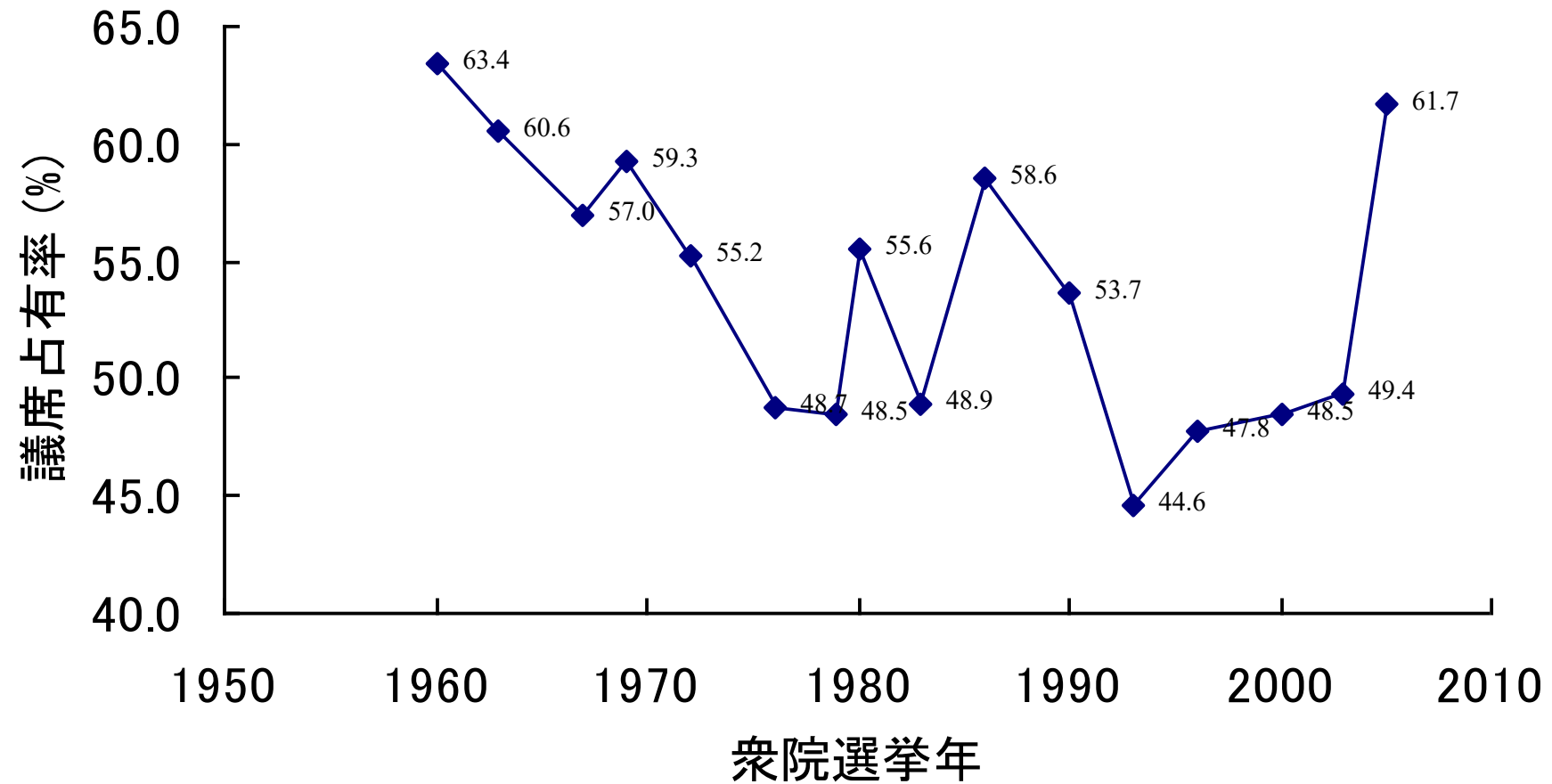
福田派、前尾派(旧池田派)・・・2

川島派、船田派、中曽根派、森派、石井派・・・各1

ビデオ:1970 三島由紀夫割腹自殺

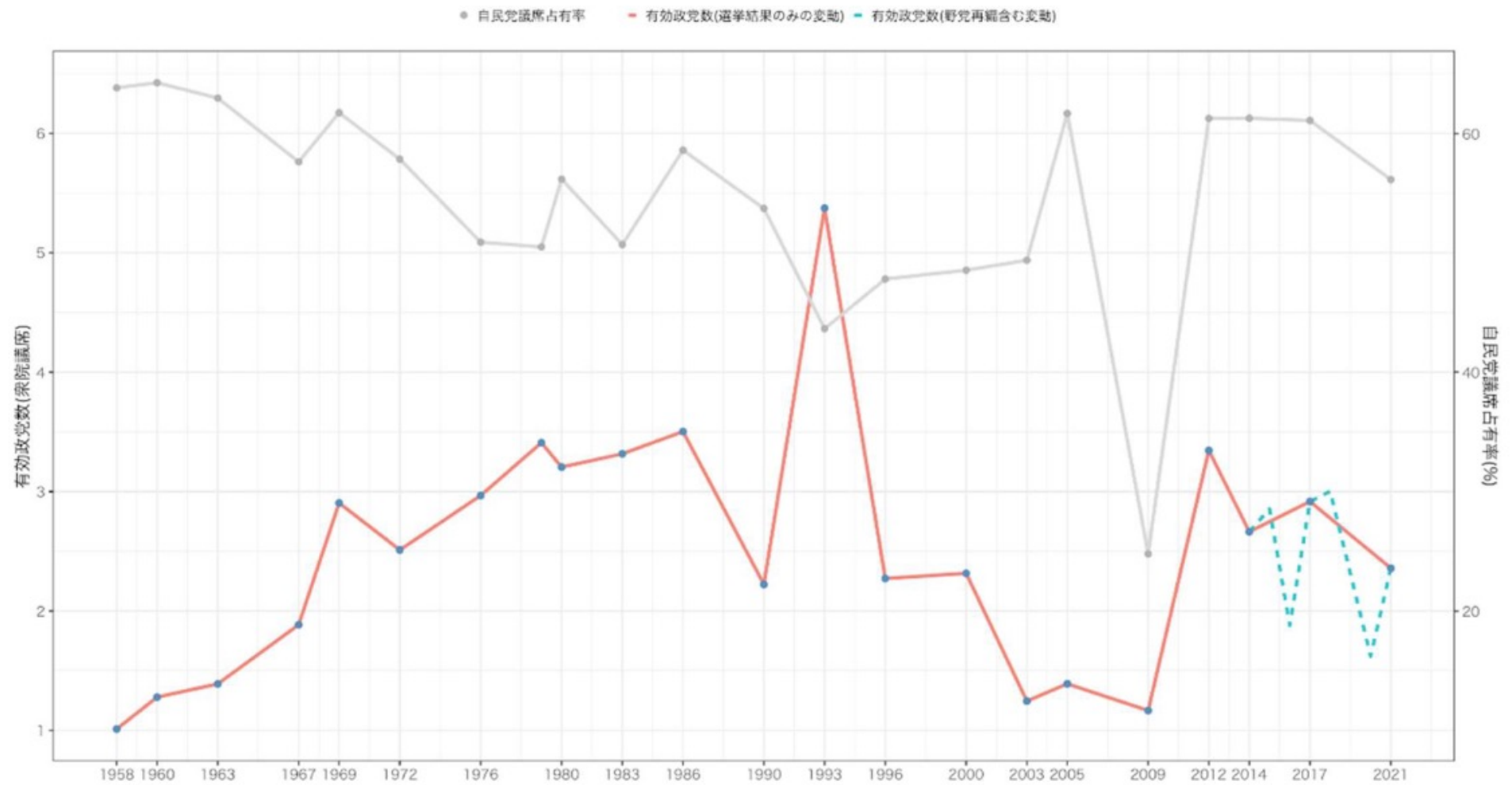
ビデオ:1973 幹事長 田中角栄

図5-1: 衆院における自民党の議席占有率 (1960-2005)



浅野正彦『市民社会における制度改革』慶應義塾大学出版会 2006年。176ページ。

衆議院有効政党数(自民+00年以降公明除外) と自民党議席占有率 推移
1958-2021



有効政党数の計算は Laakso and Taagepera (1979)の定式に従っている

自民党成立以来の総選挙では、1958年、1960年、1963年、そして
1967年と議席率において低下傾向

持ちこたえた理由

・・・長年にわたり農村部を中心に強固に築かれた自民党の底力

しかし、自民党による長期政権への倦怠は、都市部で顕著

1967年4月の東京都知事選

・・・自民党は民社党と組んで松下正寿（立教大学総長）を推薦したが、美濃部達吉（社共共闘の東京教育大学教授）に敗れる。

表3-18: 衆院選挙における自民党の議席占有率

衆院選挙	選挙年	議席率(%)	当選者/総議席	小選挙区 - 比例区
第29回	1960	63.4	296/467	-
第30回	1963	60.6	283/467	-
第31回	1967	57	277/486	-
第32回	1969	59.3	288/486	-
第33回	1972	55.2	271/491	-
第34回	1976	48.7	249/511	-
第35回	1979	48.5	248/511	-
第36回	1980	55.6	284/511	-
第37回	1983	48.9	250/511	-
第38回	1986	58.6	300/512	-
第39回	1990	53.7	275/512	-
average		55.4	275/497	-
第41回	1996	47.8	239/500	169-70
第42回	2000	48.5	233/480	177-56
第43回	2003	49.4	237/480	168-69
第44回	2005	61.7	296/480	219-77
average		51.8	251/485	183-68

注:「当選者」には選挙後の追加公認で自民党に加わった議員は含まない。1996年以降の「当選者」には小選挙区の当選者と比例区での復活当選者も含んでいる。

浅野正彦『市民社会における制度改革』慶應義塾大学出版会 2006年。112ページ。

自民党の派閥が存在する理由

中選挙区制と総裁公選制度

中選挙区制

自民党が中選挙区制下で単独過半数を維持するためには

➔ 同一選挙区から複数の候補者を当選させる必要

自民党の候補者間には主義主張で大きな差がない

➔ 食事、娯楽、入学、就職の世話などの様々なサービスの提供で組織を固める

➔ それには金がかかる

中央の実力者の保護が欲しい

大臣にもなりたい

総理・総裁を目指す自民党派閥の領袖は一人でも派閥のメンバーが欲しい

政治家の地元での必要 + 派閥領袖の側の必要

➔ 派閥政治の発展

衆院選挙と自民党要職一覧

衆院選挙	衆院選挙日	内閣名	就任日	総裁(派閥)	幹事長(派閥)	総務会長(派閥)	政務調査会長(派閥)	総務局長(派閥)
第29回	1960.11.20	第一次池田	1960.7.19	池田勇人(池田)	益谷秀次(池田)	保利茂(佐藤)	椎名悦三郎(岸)	大久保武雄(池田)
第30回	1963.11.21	第二次池田	1963.7.18	池田勇人(池田)	前尾繁三郎(池田)	藤山愛一郎(藤山)	三木武夫(三木)	服部安司(池田)
第31回	1967.1.29	第一次佐藤	1966.12.3	佐藤栄作(佐藤)	福田赳夫(福田)	椎名悦三郎(川島)	西村直巳(佐藤)	久野忠治(佐藤)
第32回	1969.12.27	第二次佐藤	1968.11.30	佐藤栄作(佐藤)	田中角栄(佐藤)	鈴木善幸(前尾)	根本龍太郎(園田)	奥野誠亮(無派閥)
第33回	1972.12.10	田中	1972.7.7	田中角栄(田中)	橋本登美三郎(田中)	鈴木善幸(大平)	桜内義雄(中曽根)	小沢辰男(田中)
第34回	1976.12.5	三木	1976.9.15	三木武夫(三木)	内田常雄(大平)	松野頼三(無)	桜内義雄(中曽根)	奥野誠亮(無派閥)
第35回	1979.10.7	第一次大平	1978.12.7	大平正芳(大平)	斎藤邦吉(大平)	倉石忠雄(福田)	河本敏夫(三木)	塩崎潤(大平)
第36回	1980.6.22	第二次大平	1979.11.9	大平正芳(大平)	桜内義雄(中曽根)	鈴木善幸(大平)	安倍慎太郎(福田)	塩崎潤(大平)
第37回	1983.12.18	第一次中曽根	1982.11.25	中曽根康弘(中曽根)	二階堂進(田中)	細田吉蔵(福田)	田中六助(鈴木)	竹下登(田中)
第38回	1986.7.6	第二次中曽根	1985.12.28	中曽根康弘(中曽根)	田中六助(鈴木)	金丸信(田中)	藤尾正行(福田)	加藤紘一(鈴木)
第39回	1990.2.18	第一次海部	1989.8.10	海部俊樹(河本)	小沢一郎(竹下)	唐沢俊二郎(中曽根)	三塚博(安倍)	中村喜四郎(竹下)
第40回	1993.7.18	宮沢	1992.12.12	宮沢喜一(宮沢)	梶山静六(小渕)	佐藤孝行(渡邊)	三塚博(三塚)	古賀誠(宮沢)
第41回	1996.10.20	第一次橋本連立	1996.1.11	橋本龍太郎(小渕)	加藤紘一(宮沢)	塩川正十郎(三塚)	山崎拓(渡辺)	谷垣禎一(宮沢)
第42回	2000.6.25	第一次森連立	2000.4.5	森善郎(森)	野中広務(小渕)	池田行彦(加藤)	亀井静香(江亀)	鈴木宗男(小渕)
第43回	2003.11.9	小泉第一次連立	2003.9.22	小泉純一郎(森)	安倍晋三(森)	堀内光雄(堀内)	額賀福志郎(橋本)	町村信孝(森)
第44回	2005.9.11	小泉第二次連立	2004.9.27	小泉純一郎(森)	武部勤(山崎)	久間章生(旧橋本)	与謝野馨(無)	二階俊博(二階)

浅野正彦『市民社会における制度改革』
慶應義塾大学出版会 2006年。237ページ